

通学合宿 ②

～地域の取組（通学合宿を実施するにあたって）～

平成25年3月

「通学合宿」とは…

子どもたちが親元を離れ、共同宿泊生活をしながら学校に通い、自分たちで行う日常生活体験活動を通して、生活技術（炊事、洗濯、掃除等）や生活習慣（食事、排泄、睡眠、あいさつ等）を身に付け、「自尊感情」や「規範意識」等の高揚を図ることが大きな目的です。

「通学合宿」は、教育力向上福岡県民運動の一環として実施しています。

「通学合宿」を実施した地域では、その教育効果の高さから継続実施率は80%を超えています。この取組をさらに全県に広げるために、実行委員会の立ち上げや支援者（地域ボランティア等）による運営のノウハウ等について、Q&A方式でお答えします。ぜひ御活用ください。

Q1.

通学合宿を実施するときの心構えとして大切なことは？

- A. 通学合宿は、子どもたちの日常生活技術や基本的生活習慣、社会性を身に付けることを目的としています。そのため、特に以下の点については支援者間で十分に共通理解を図っておきましょう。
- 子どもたちの頑張りや気づきには積極的にほめること
 - ルールを守らない時や危険なことをした時は、きちんと叱ること
 - うまいかない時でも励ましながらできるようになるまで忍耐強く見守ること
- 通学合宿の教育効果は、支援者の対応で変わってきます。支援者がみな同じレベルで子どもたちに接することが何より大切です。



Q2.

企画・運営する実行委員会はどうやって立ち上げるの？

- A. 企画・立案、運営を行う組織（実行委員会）を立ち上げるには、まず子どもの体験活動に精通している方で、企画・運営の役割を担うコーディネーターを決めることが大切です。
- また、地域の実情に応じて、公民館長、区長をはじめ子ども会育成会、老人会、婦人会、PTA等の団体代表の方々や青年有志の方で実行委員会を立ち上げることをお勧めします。
- コーディネーターや実行委員の選定については、市町村教育委員会の生涯学習課（社会教育課）に相談しましょう。
- また、通学合宿に関する相談は各教育事務所（社会教育室）や県教育庁社会教育課も行っています。ぜひ御活用ください。（問い合わせ先「県教育庁社会教育課」：092-643-3887）

Q3.

支援者はどうやって集めたらいいの？

- A. まずは、社会教育関係団体（子ども会や婦人会、PTA等）に相談しましょう。また、回覧板による募集の広報や地域人材バンクを活用することも考えられます。地域によっては学生ボランティアを募集しているところもあります。
- ボランティアを募集する際には参加者の親（家族）は避けましょう。通学合宿は子どもを家庭から切り離すことで発達段階に応じた精神的・社会的自立を支援します。



Q4. 活動プログラムを立てるときに大切なことは何？

A. 日常的な生活技術の習得を目的の一つとしていることから、特別なプログラムは必要ありません。掃除、炊飯、洗濯、宿題、入浴、就寝準備等、日常の生活体験そのものが活動の中心となります。子どもたち一人一人に役割をもたせ、最後まで責任を果たせるようにすることが大切です。

Q5. 子どもたちで決めることや子どもの係にはどのようなものがあるの？

A. [子どもたちで決めること]

- ・リーダー決め ・グループ分け ・役割分担づくり ・献立づくり など

[子どもたちの係(当番)]

- ・リーダー ・買い物係 ・洗濯係 ・お風呂係 ・炊事係 ・掃除係 ・保健係 など

人数にあわせて係を決めるのではなく、自分たちで生活するために何が必要かを考えて係を決めましょう。



Q6. 支援者の役割分担にはどのようなものがあるの？

A. 役割としては、代表、広報、渉外、食事、会計、安全、物品購入、宿泊、学習などがあります。具体的には、

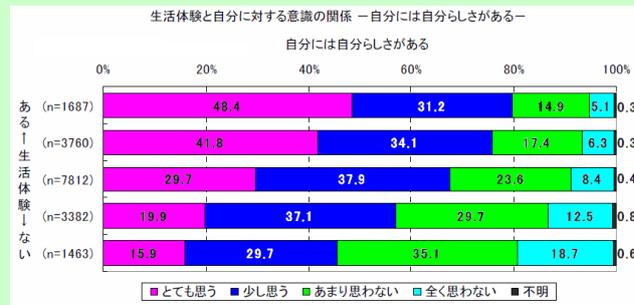
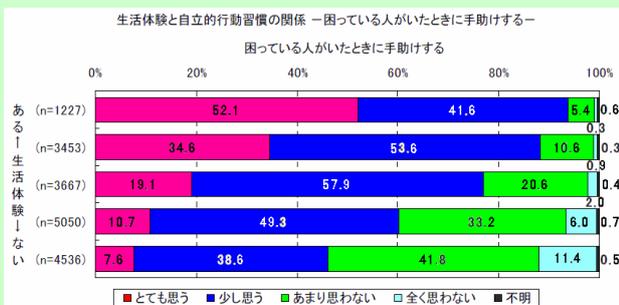
- 代表 ・ 会議を開き、企画・立案をします。
- 広報 ・ 支援者の募集・依頼、連絡・調整等を行います。
- 渉外 ・ もらい湯先の選定、行政の担当者、保護者や学校との連絡調整をします。
- 食事 ・ 朝食・夕食の指導を行います。
- 会計 ・ 事業費の管理を行います。
- 安全 ・ 登下校指導、お風呂の送迎等を行います。
- 物品購入 ・ 事前準備の買い出しや食材の買い出しの補助をします。
- 宿泊 ・ 子どもたちと一緒に寝泊りし、見守ります。
- 学習 ・ 学校の宿題や予習・復習等の見守り、アドバイスを行います。



子どもたちの健やかな成長を願い、地域の子どもは地域で育てるといふ気運をみんなで高めていきましょう！

体験を多く行っている子どもほど自己肯定感(自尊感情)が高い傾向にあります

下の2つの図からは、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」「小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと」などの生活体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身につくこと、自分には自分らしさがある」といった自己肯定感(自尊感情)も高い傾向にあることがわかります。



「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成23年11月 国立青少年教育振興機構)

福岡県教育庁教育企画部企画調整課 教育力向上対策室 TEL 092-643-3882
 教育力向上福岡県民運動ホームページ <http://www.fukuoka-kenminundou.jp>

※ このリーフレットは、上記ホームページからダウンロードできます。そのまま印刷して配布、学校(園)・学年だよりやホームページ等に一部抜粋・引用して配布、学級懇談会等資料として配布するなどして有効に活用してください。